



2023年度国際文化学部

中国の文化IX

第1回 なぜ中国文化を学ぶのか



なぜ中国文化を学ぶのか？





「日本固有の文化にはどんなものがあるの？」
外国の人にこんな質問をされたら、あなたはど
う答えますか？

落語

ここではその一例として、日本の
伝統文化の一つである落語を取り上
げてみよう。

落語は、戦国時代から江戸時代初
期にかけて活躍した僧・安楽庵策
伝（あんらくあんさくでん、一五五四～
一六四二年）を始祖とする、日本が
世界に誇る笑いの伝統芸能である。

現在も東京、関西を中心に約八〇
〇人の落語家が活動を続けている。



桂枝雀（一九三九―一九九）

落語家の一人に故・桂枝雀がいる。枝雀は、一九三九年、神戸に生まれた。中学時代に父親を亡くし、働きながら定時制高校に通い、神戸大学に進学。入学後、一年で大学を退学し、桂米朝の弟子となった。

しかし、三三歳のときにうつ病を発症。病氣と闘いながら、英語落語や笑いの理論化に努めたが、五九歳で惜しまれながら、この世を去った。



古典落語 「饅頭こわい」

はじめに桂枝雀が一八八三年に口演した「饅頭こわい」という落語を見てみよう。

新の舞台は、とある長屋。そこに暮らす連中が雑談に花を咲かせている。怖いものは何かと話していると、みつつあんが意外なものを挙げる。それはなんと饅頭。みんなはみつつあんを驚かそうと、大量の饅頭を持って家に向かったのだが・・・



桂枝雀「饅頭こわい」

(1983年7月10日放送MBS「笑いころげてたっぷり枝雀」より)



なぜ「饅頭こわい」なの？

アジアから見た落語

この落語は、中国の古代笑話を翻案したもので、原話に登場する「饅頭」は、お菓子のまんじゅうではなく、中国の「饅頭(マントウ)」、すなわち蒸しパンを指す。

中国では、北方は小麦、南方は米を主食とし、北方では小麦で作った蒸しパンがご飯の役割をしていた。つまり、米を主食とする日本でいえば、「おにぎり怖い」といった笑い話なのである。



アジアから見た落語

落語は、日本が世界に誇る笑いの伝統芸能だが、その演目を充実させる過程において、中国の古代笑話から多くの笑話を取り入れている。

「饅頭こわい」も中国宋代の葉夢得（一〇七七〜一一四八）の筆記（エッセー集）『避暑録話』に引用された笑話が原話になっている。

像亦可一灑然也

讀書而不應舉則已矣讀書而應舉應舉而望登科登科而仕仕而以敘進苟不違道于義皆無不可也而世有一種人既仕而得祿反嚶嚶然以不仕為高若

欽定四庫全書

避暑錄話
卷下

七三

欲棄之者此豈其情也哉故其經營有甚于欲仕或不得間而入或故為小異以去因以遲留往往遂竊名以得美官而不辭世終不寤也有言窮書生不識饅頭計無從得一日見市肆有列而鬻者輒大呼仆地主人驚問曰吾畏饅頭主人曰安有是理乃設饅頭百許枚空室閉之徐伺于外寂不聞聲穴壁窺之則以手搏撮食者過半矣亟開門詰其然曰吾見此忽自不畏主人知其給怒而叱曰若尚有畏乎曰有

猶畏臘茶兩椀爾此豈求不仕者也

宋の筆記に登場する「饅頭こわい」

ある貧乏な書生。饅頭（蒸しパン）を食べたいと思うのだが、手に入れない方法がない。ある日のこと、市場で饅頭を並べて売っているのを見た彼は、大声をあげて地面に倒れた。店の主人が驚いてたずねると、「私は饅頭が怖いのです」と答えた。

（宋）葉夢得『避暑錄話』 卷下
像亦可一灑然也

讀書而不應舉則已矣讀書而應舉應舉而望登科登科而仕仕而以敘進苟不違道于義皆無不可也而世有一種人既仕而得祿反嚶嚶然以不仕為高若

欽定四庫全書

避暑錄話
卷下

七五

欲棄之者此豈其情也哉故其經營有甚于欲仕或不得間而入或故為小異以去因以遲留往往遂竊名以得美官而不辭世終不寤也有言窮書生不識饅頭計無從得一日見市肆有列而鬻者輒大呼仆地主人驚問曰吾畏饅頭主人曰安有是理乃設饅頭百許枚空室閉之徐伺于外寂不聞聲穴壁窺之則以手搏撮食者過半矣亟開門詰其然曰吾見此忽自不畏主人知其給怒而叱曰若尚有畏乎曰有

猶畏臘茶兩椀爾此豈求不仕者也

宋の筆記に登場する「饅頭こわい」

店の主人は「そんな馬鹿なことがあるか」と饅頭百個ほどを置いて、この書生を部屋の中に閉じ込めた。外からようすを伺うと、静かで声がない。壁に穴を開けて覗いてみると、饅頭を手でつかみ、すでに半分ほど食べてしまっている。

（宋）葉夢得『避暑錄話』卷下
像亦可一灑然也

讀書而不應舉則已矣讀書而應舉應舉而望登科登科而仕仕而以敘進苟不違道于義皆無不可也而世有一種人既仕而得祿反嚶嚶然以不仕為高若

欽定四庫全書

避暑錄話
卷下

七十三

欲棄之者此豈其情也哉故其經營有甚于欲仕或不得間而入或故為小異以去因以遲留往往遂竊名以得美官而不辭世終不寤也有言窮書生不識饅頭計無從得一日見市肆有列而鬻者輒大呼仆地主人驚問曰吾畏饅頭主人曰安有是理乃設饅頭百許枚空室閉之徐伺于外寂不聞聲穴壁窺之則以手搏撮食者過半矣亟開門詰其然曰吾見此忽自不畏主人知其給怒而叱曰若尚有畏乎曰有

猶畏臘茶兩椀爾此豈求不仕者也

宋の筆記に登場する「饅頭こわい」

店の主人は急いで扉を開け、問い詰めた。書生は答えていった。「饅頭を見たら、急に怖くなくなったんです」騙されたと知った主人が「ほかに怖いものはないのか!」と怒ると、書生は答えて言った。「ほかに渋いお茶を何杯か、怖いですね。」

(宋)葉夢得『避暑錄話』卷下

像亦可一灑然也

讀書而不應舉則已矣讀書而應舉應舉而望登科登科而仕仕而以敘進苟不違道于義皆無不可也而世有一種人既仕而得祿反嚶嚶然以不仕為高若

欽定四庫全書

避暑錄話
卷下

七十三

欲棄之者此豈其情也哉故其經營有甚于欲仕或不得間而入或故為小異以去因以遲留往往遂竊名以得美官而不辭世終不寤也有言窮書生不識饅頭計無從得一日見市肆有列而鬻者輒大呼仆地主人驚問曰吾畏饅頭主人曰安有是理乃設饅頭百許枚空室閉之徐伺于外寂不聞聲穴壁窺之則以手搏撮食者過半矣亟開門詰其然曰吾見此忽自不畏主人知其給怒而叱曰若尚有畏乎曰有

猶畏臘茶兩椀爾此豈求不仕者也

『笑府』に収録された「饅頭」

明代の末、蘇州の文人であつた馮夢龍は、中国の古今の笑話を集大成した『笑府』（全十三卷）を出版した。中国の笑話全集であるこの本の中に、宋代の『避暑録話』の中の「饅頭」の笑話も収録された。

想齊一二隻耳、大為治一盃、意欲與妻同享、方往取筋回、而妻已染指散盡、止餘其一矣、夫曰、何不并啖此枚、妻攢眉荅云、我若弊得下此隻、就不害病了。

饅頭

有貧士餒甚、見市有鬻饅頭者、偽大呼仆地、主人驚問其故、曰、吾性畏饅頭、主人因設數十枚于室室中、

而閉士于內、冀相困以為一笑、久之寂如、乃啟門見其搏食過半、詰之、則曰不知何故、忽不覺畏、主人怒叱曰、汝得無尚有他畏乎、曰無他、此際只畏苦茶兩碗。

糕

有叫賣糕者、聲甚啞、人問其故、曰、我餓耳、問既餓、何不食糕、曰、是饅頭的、兩口皆低聲說

糍粑

この『笑府』という本は、いまどこにあるのか？

想齊一二隻耳、夫為治一盃、意欲與妻同享、方往取筋回、而妻已染指散盡、止餘其一矣、夫曰、何不并啖此枚、妻攢眉荅云、我若弊得下此隻、就不害病了。

饅頭

有貧士餒甚、見市有鬻饅頭者、偽大呼仆地、主人驚問其故、曰、吾性畏饅頭、主人因設數十枚于室室中、

而閉士于內、冀相困以為一笑、久之寂如、乃啟門見其搏食過半、詰之、則曰、不知何故、忽不覺畏、主人怒叱曰、汝得無尚有他畏乎、曰、無他、此際只畏苦茶兩碗。

糕

有叫賣糕者、聲甚啞、人問其故、曰、我餓耳、問既餓、何不食糕、曰、是饅頭的、兩口皆低聲說

糰粿

『笑府』の輸入と翻訳

『笑府』は、中国では早くに失われたが、日本の国立公文書館に江戸時代に輸入された原本がいまも所蔵されている。

この本が輸入されると、日本では明和五、六年（一七六八、九）に大ブームが起こり、三種の翻刻本が出版された。

左の写真は明和六年に出版された『刪笑府』の中の「饅頭」である。


有裁楊筆者命童守之旬日不失一絲王喜謂童曰
汝用心可佳然何法而能不失答曰我夜夜拔來藏
在家裡

醃蛋

甲乙兩鄉人入城偶啣醃蛋甲誦曰此蛋何以獨
乙曰我曉得了是醃鴨脯出來的

饅頭

有貧士餒甚見市有鬻饅頭者偽大呼仆地王人驚
問其故曰吾性畏饅頭王人因設數十枚于空室中
而閉士于內冀相困以為一笑久之寂如乃啟門見
其搏食過半詰之則曰不知何故忽不覺畏王人怒
叱曰汝得無尚有他畏乎曰無他此際只畏苦茶兩



中国から輸入された笑話は、やがて舞台を日本に移し、江戸小咄、さらに落語へと発展した。

江戸小咄『氣乃薬』

安永八年(一七七九)

饅頭

四、五人集まっている所へ、瘦せた色の悪い男が片息になって、がたがた震へてきて

「あとから饅頭売りが参りますが、私はその饅頭がどうも怖ろしうてなりませぬ。どこぞへかくして下さい」

といへば、物置へかくしておいて、いたづらに右の饅頭買って、盆へ杉形に積み上げ、物置の内へ入れて戸をぴっしやり建てて押へて居るに、久しく過ぎても音も沙汰もなし。

まを落しやした

饅頭

五人集つて居る所へ、瘦せた色の

悪い男が片息ういきになつて、がたがた震へてきて

まの

まを落しやした

五人集つて居る所へ、瘦せた色の悪い男が片息になつて、がたがた震へてきて

「あとから饅頭売りが参りますが、私はその饅頭がどうも怖ろしうてなりませぬ。どこぞへかくして下さい」

江戸小咄『気乃薬』

安永八年(一七七九)

もし怖がつて死にはせぬかと明け
てみれば、饅頭は残らず喰つて、口
なめずりをして居るゆへ、

「手前はあまり怖がつたから、おど
しに入れたが、そう喰つて仕廻つた
は、どこがこわいのだ」
といえは、

「アイ、この上はお茶が二、三ばい
怖ふござる」

てござるを女アイサ 袴はかまのら
まを落しやした

饅頭

笑人集あつまつて尻しりをくやせくく名なの

りい男おとこが片かた息いきふあかかここぬ

女の

ろくて来てはまんちうりり 饅頭まんぢう膏こうがあり

ままんまんま私わたしああののままんまぢぢううががぞぞりり怖おそろろ

ろくろろくろあありりまませせぬぬぞぞららぞぞくくかかららいいてて下下

何が日本固有の文化なのか？

では、日本固有の文化とは何だろうか。

落語「饅頭こわい」は、江戸時代に中国から輸入された笑話を原話としてしている。しかし、その後二五〇年もの間、多くの落語家によって改良・発展が続けられたことで、いまも多くの人々に愛される日本固有の伝統芸能となったのである。



なぜ中国文化を学ぶのか？

中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語

(Lingua Franca) を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。

なぜ中国文化を学ぶのか？

漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与えた。

一方、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は、東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。

なぜ中国文化を学ぶのか？

紙や印刷術の発明と書籍の出版は、東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

なぜ中国文化を学ぶのか？

いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。

落語の原話となった『笑府』や、この授業の最後で取り上げる『三国志演義』などは、わが国の芸能や文学にも多大な影響を与えた。

なぜ中国文化を学ぶのか？

日本文化の独自性や価値は、中国文化の影響を無視しては語ることはできない。

この授業を通じて、まずは中国文化の歴史を理解しよう。